

二〇一七年四月一八日(参加者二三名)

黒雲を押し上げ六甲山笑ふ	菜々
夙川のなぞへに傾ぎ緑立つ	菜々
堰落つる水に揉まるる落花かな	菜々
川堤海へまつすぐ風光る	菜々
鎮魂の童像たつ花は葉に	満天
花吹雪いまし特急通過中	満天
花の道抜けて海坂一望に	満天
園児らの双手をあげし花吹雪	満天
園までの道に迷ひし薄暑かな	せいじ
園統ぶるメタセコイアの芽吹きかな	せいじ
公園の樹間を埋む八重桜	せいじ
ジヨギングの歩を緩めたる花の径	よし子
急流に足早となる花筏	よし子
昨夜の風公園中を花畳	よし子
一頭の蝶の紛れし花吹雪	うつぎ
飛びきては落花畳を乱す鳩	うつぎ
一叢の著莪に歩をとむ散歩かな	小袖
園庭の花の遅速にめぐりけり	小袖

桜薬つもる坂道な滑りそ	こすもす
桜蕊混じる玉砂利踏めりけり	こすもす
一陣の風四阿へ花吹雪	よう子
雨ふみ伏し目がちなる八重桜	よう子
園めぐるとの径も草芳しき	宏虎
老幹の洞に嵩なす春落葉	ぼんこ
手をつなぐ試歩の二人に花万朶	有香
花屑を虜としたる潦	わかば

定例会の選

二〇一七年四月一八日(参加者二三名)